

第3回 孤独・孤立対策推進会議

議事録

(開催要領)

1. 開催日時：令和4年4月26日（火）17:45～18:23
2. 場 所： 中央合同庁舎第4号館12階全省庁共用1208特別会議室
3. 出席者：

野田 聖子	孤独・孤立対策担当大臣
赤池 誠章	内閣府副大臣
小林 史明	デジタル副大臣
富樫 博之	復興副大臣
田畑 裕明	総務副大臣
津島 淳	法務副大臣
鈴木 貴子	外務副大臣
池田 佳隆	文部科学副大臣
石井 正弘	経済産業副大臣
大岡 敏孝	環境副大臣
鬼木 誠	防衛副大臣
宗清 皇一	内閣府大臣政務官
藤原 崇	財務大臣政務官
深澤 陽一	厚生労働大臣政務官
下野 六太	農林水産大臣政務官
加藤 鮎子	国土交通大臣政務官
小島 裕史	警察庁長官官房長

(議事次第)

1. 最近の孤独・孤立対策の取組について
2. 孤独・孤立の実態把握に関する全国調査について
3. 孤独・孤立対策の令和5年度予算概算要求について

(配布資料)

第3回孤独・孤立対策推進会議説明資料

○赤池内閣府副大臣 ただいまから、「第3回孤独・孤立対策推進会議」を開催いたします。

大変御多用の中、御参加をいただき、ありがとうございます。

本日の司会を務めさせていただきます、孤独・孤立対策を担当する内閣府副大臣の赤池誠章でございます。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

まばらな拍手をありがとうございます。

感染症対策ということで、会場がいささか広うございますが、その分、今日御出席の副大臣、または事務方の熱意で埋めていただきたいと存じます。

それでは、早速議事に入ります。

なお、各府省からの御発言は、3つ目の議題の後でまとめて行っていただくようお願いいたします。

それでは、議事の1つ目、最近の孤独・孤立対策の取組について、事務局から報告をお願いいたします。

○北波孤独・孤立対策担当室次長 事務局でございます。

資料を2枚めくっていただきまして、「あなたはひとりじゃない～声を上げよう、声をかけよう」キャンペーンのところを御覧ください。

本日は、キャンペーンの取組状況について御報告いたします。

2月8日にキャンペーンを開始して以降、一人でも多くの方々に、悩みを抱え込まずに声を上げることや、周りの人の悩みに気づき声をかけることの大切さがメッセージとして伝わるよう、関係府省とも連携しながら、各種の取組を重ねております。

「ひとりじゃないカフェ」と題するオンライン番組につきましては、2月21日に第1回、4月21日に第2回の配信を行っております。第2回は、文部科学省、防衛省との共同キャンペーン企画とし、番組の作成と広報に協力いただくとともに、末松大臣及び岸大臣からも番組にメッセージをお送りいただきました。

2月26日には、内閣府の子供・若者育成支援の一環で実施する「ユース・ラウンド・テーブル」におきまして、孤独・孤立をメインテーマとして取り上げていただき、高校生から30歳までの若い世代の方々に様々な議論を行っていただきました。

3月11日からは、孤独・孤立の相談窓口や支援策について、各府省の協力を得まして、ツイッターにて連日情報発信を行っております。

そのほか、政府広報の活用や、孤独・孤立の体験談の募集と公表、大臣メッセージのホームページ掲載など、多角的な取組を行っているところでございます。

5月以降につきましても、外務省と共同開催いたします駐日大使会合など、各府省に協力を求めさせていただきながら様々な取組を展開し、国内外に広く孤独・孤立対策に関する関心や理解を普及していきたいと考えております。

以上でございます。

○赤池内閣府副大臣 続いて、議事の2つ目、孤独・孤立の実態把握に関する全国調査について、事務局から御報告をお願いいたします。

○笹川孤独・孤立対策担当室長代理 御報告いたします。

同じ資料を2枚めくってください。「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（令和3年）調査結果のポイント」です。

4月8日に発表した調査について、ポイントを御報告いたします。

まず、この調査は、孤独・孤立全体に関する統計調査としては政府初のものになります。実施に当たりましては、一般統計調査として総務省の承認も得て、信頼性を確保しております。

調査対象は、全国の満16歳以上2万人、有効回答数は1万1867件、有効回答率59.3%でございます。

1枚おめくりください。孤独・孤立の実態の把握方法として、2つの聞き方をしております。「あなたは孤独ですか」というような直接質問だけではなくて、そういった質問に答えにくい方がいることも想定されますので、「孤独」という言葉は使わずに、孤独感をスコアで測定する間接質問という聞き方もしております。

まず、直接質問、上のほうです。「あなたはどの程度、孤独であると感じることがあるか」という質問に対しては、孤独感が「しばしばある・常にある」という回答が4.5%、「時々ある」が14.5%、「たまにある」が17.4%、孤独感が「ほとんどない」が38.9%、「決してない」が23.7%という結果になっています。右上の棒グラフです。

この結果につきまして、孤独感が「しばしば」「時々」「たまに」を足して36%ぐらいになるという解釈もできるかと思えますけれども、我々の研究会では、「しばしば・常に」と「時々」を足すことの意味合い、意義、適否とか、逆に孤独感がないと答えた人が6割ぐらいいることをどう考えるか、いろいろな議論が出まして、そういった解釈を行うことについては慎重であるべきという結論に至っております。したがって、我々政府側からの説明は、足して4割という言い方はせずに、あくまでもこう答えた方が何%という言い方にとどめております。

ただ、この点は、野田大臣が先日、記者会見でもおっしゃっていたのですけれども、見方によっては、孤独感が「決してない」といった方は約2割しかいなくて、8割ぐらいの人は、程度の差はあれ孤独感を感じているとも考えられます。

したがって、孤独は誰にでも起こり得るものであり、孤独・孤立に悩んでいる方々に必要な支援が行き届くようにしっかりやっていかないといけないということかと思っております。

それから、同じページの下半分が間接質問で、左側に質問が並んでいます。「人とのつきあいがないと感じるか」といった間接的な質問によってスコア化しています。合計スコアが高いほうが孤独感が高いということで、10～12点が6.3%、7～9点が37.1%というような結果になっております。

孤独だと感じますかという問いなので、直接質問のほうが分かりやすいということもあって、我々は直接質問のほうでプレゼンを進めていきますけれども、今後の分析に当たっては間接質問も非常に有益なものですので、どちらがいい、悪いというものではないと思

っております。

もう一枚おめくりください。孤独の全体的な傾向です。孤独感がしばしば・常にあると答えた4.5%の方の中を見ると、年齢階級別では30歳代が最も高く7.9%、低いのが70歳代で1.8%です。これは男女別に見ても変わらずに、男女ともに30歳代が高く、70歳代が低いということになっています。

この詳細な理由は今後分析していくことになるのですが、例えば同居していない家族や友人と直接会って話す頻度がどのくらいあるかという別な問いと関連づけてみると、そういった頻度は30歳代のほうが低くて、70歳代のほうがコミュニケーションの機会が多いという回答が出ています。そういったことも関係するのかなと思っております。

もう一枚おめくりください。現在の孤独感に至る前に経験した出来事です。グラフの真ん中の茶色っぽいところが孤独感を強く感じている40%ぐらいのグループで、左側が感じていない人たちです。複数回答で聞いていますけれども、御覧いただいて分かりますとおり、一人暮らしとか転校・転職、あるいは死別といったところはどちらも高くなっています。これに対して、心身の重大なトラブル、病気・けがとか、人間関係による重大なトラブル、いじめ・ハラスメントといったところは、圧倒的に孤独感を強く感じる人のほうに高い数字が出ております。ここでも因果関係は今後の分析かなと思っておりますが、そういう答えになっています。

もう一ページめくっていただいて、今度は孤立のほうの調査結果です。孤立につきましては、上の青い四角の中にあるとおり、社会的交流、社会参加などの4つで聞いています。その結果、社会的交流について、同居していない家族・友人と会って話す機会が少ない割合が11.2%、月1回未満は15.2%ということで、これは孤独感が「しばしば・常に」という人との関連性は強く出ておりました。

もう一枚めくっていただいて、最後の緑の紙を御覧ください。ここは「しばしば・常に」と回答した方の中の分析をしています。左下、婚姻状況は「未婚」「離別」が高く、同居人は「いない」が高い。

右側に行くと、「派遣社員」「失業中」、年収は「100万円未満」「100～199万円」といった層が高く出ております。

以上が概要でございまして、私どもといたしましては、今年度も予算をいただきましたので、引き続き、全国調査を行うなど、継続的に実態把握に努めていきたいと思っております。

それから、事務的にもお願いしてはいますが、各府省におかれましては、去年5月の連絡調整会議で坂本大臣から既に依頼しているとおおり、各府省の統計調査において、今回の全国調査をベンチマークに活用して把握・分析できるように、必要な調査事項を追加するなど、御協力いただければと思っております。

以上です。

○赤池内閣府副大臣　ありがとうございました。

続きまして、議事の3つ目、孤独・孤立対策の令和5年度予算概算要求について、私のほうから発言をさせていただきます。

まずは、先ほどの関係閣僚会議で決定いたしました総合緊急対策において、孤独・孤立対策に取り組むいわゆるNP0等への支援の拡充や運用改善に取り組んでいただき、関係府省に深く感謝を申し上げます。

今回の支援がしっかりと現場に行き渡るよう、令和3年度補正予算や4年度当初予算も含めて、早期の執行をお願いしたいと存じます。

その上で、本日御参集の各副大臣におかれましては、「孤独・孤立対策の重点計画」の基本方針や各所管分野の現場のニーズに即して、令和5年度の孤独・孤立対策関係予算の概算要求に向けて、新たな施策や既存施策の拡充の検討を事務方に指示していただくようお願い申し上げます。

その際、NP0等への支援に対しては、重点計画において、「当面、令和3年3月の緊急支援策で実施した規模・内容について、強化・拡充等を検討しつつ、各年度継続的に支援を行っていく」とされているところ、安定的かつ継続的な支援のために、補正予算で措置している施策について、当初予算としての要求を十分検討していただくようお願い申し上げます。

あわせて、社会福祉協議会や民生委員・児童委員など、地域に既にある様々な方々との連携・協力をより一層推進していただいて、NP0等を含めて様々な関係の方々との包括的な支援体制の構築に一層取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

各府省庁の検討状況につきましては、速やかに事務方からヒアリングをさせていただきます。御協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、本日の議事全体について、各副大臣より順次御発言をいただきたいと存じます。

初めに、内閣官房、内閣府、消費者庁に関する事項について、私から発言をさせていただきます。

先ほどの関係閣僚会議で決定された総合緊急対策において、孤独・孤立に悩む方々にきめ細やかな支援が行き届くよう、統一的な相談窓口や地域における官民連携体制の構築を推進いたします。

また、地方自治体の子供の貧困対策事業を支援する「地域子供の未来応援交付金」を拡充し、子供の居場所づくりをさらに推進いたします。

さらに、「地域女性活躍推進交付金」により、孤独・孤立で困難を抱える女性に寄り添った相談支援やその一環として生理用品の提供等を行う地方自治体の取組を後押ししてまいります。

消費者被害対策では、重点計画に基づき、消費者のトラブル防止等に資する見守りネットワークの地方消費者行政強化交付金による活用促進、被害防止等のためのオンラインでの相談会やシンポジウムの開催といった啓発活動の実施について、着実に取り組んでまい

ります。

以上でございます。

続きまして、指名する各副大臣から、大変恐縮ではございますが、御発言をそれぞれ1分程度でお願い申し上げます。

それでは、小林デジタル副大臣、お願いいたします。

○小林デジタル副大臣 デジタル庁では、前回の会議でも御紹介をいたしましたが、こどもに関する情報・データ連携によって、困難を抱えるこどもたちを早期に発見して、ニーズに応じたプッシュ型の支援につなげるために、関係府省とともに副大臣プロジェクトチームで検討しています。

先日の第3回会合においては、論点整理の骨子案を示しまして、今後、5～6月の取りまとめに向けて、さらに議論を深めていきたいと考えております。

また、地方公共団体等が保有するデータを、実際に分野を超えて連携し、活用する際に解決すべき制度面・運用面の課題を検証するため、実証事業を行う7団体を選定しました。6月以降の実証事業の開始に向けて、スピーディーに準備を進めていきたいと考えています。

引き続き、関係府省としっかり連携して取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

以上です。

○赤池内閣府副大臣 ありがとうございます。

続いて、富樫復興副大臣、お願いいたします。

○富樫復興副大臣 復興庁では、東日本大震災の被災者支援においては、災害公営住宅等への移転が進んだ中、いまだ福島県等、避難生活が長期にわたる方もおられるなど、復興のステージに応じた切れ目のない支援が必要であります。

特に、災害公営住宅に転居された方の中には一人暮らしとなった高齢者が多く、孤独死を防止するためにも、日頃からの孤立防止やコミュニティーづくりが重要であります。

このため、復興庁では、被災者支援総合交付金を通じて、自治会の形成や交流会の開催などのコミュニティーづくりに対する支援、生きがいくりのための「心の復興」、生活支援相談員による高齢者等の見守りの実施などの自治体の取組を幅広く支援しています。

引き続き自治体と連携し、丁寧な状況を伺いながら、被災者に寄り添った取組を推進してまいります。

以上です。

○赤池内閣府副大臣 ありがとうございます。

続きまして、田畑総務副大臣、お願いいたします。

○田畑総務副大臣 総務省であります。

総務省では、重点計画に沿いまして、孤独・孤立対策関連施策を今年度も丁寧に進めてまいります。

特に、地域運営組織につきまして、令和3年度に約6,000団体が全国にございますが、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、令和6年度までに7,000団体とすることを掲げております。今年度から、各組織が実施する交流の場や居場所づくり等に要する経費につきまして、孤独・孤立対策として市区町村が支援できるよう、地方交付税措置を講じてございます。地域運営組織の形成・運営への支援の充実を進めてまいります。

また、高齢者など、デジタルの活用に不安をお持ちの方を対象とした、オンラインによる行政手続等のスマートフォンの利用方法に関する講習会につきまして、実施主体を現在公募中でございます。全国展開型は4月28日まで、地域連携型については5月13日ということで、現在公募中であります。

講習会の実施箇所数に関し、昨年度の約2,000か所から、今年度は3,000か所に拡大するほか、携帯電話ショップのない地域を念頭に、講師派遣を実施する予定でございます。

その他の施策を含め、本日示されました調査結果を踏まえ、令和5年度予算概算要求に向けまして、各府省とはもちろんでありますし、地方公共団体からのお声も大切に、協力をして、取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

○赤池内閣府副大臣 ありがとうございます。

続きまして、津島法務副大臣、お願いいたします。

○津島法務副大臣 法務副大臣の津島でございます。

先ほど御説明のあった孤独・孤立の実態把握に関する全国調査の結果では、孤独感があると回答された方は、若い世代の人ほどその割合が高いという傾向が明らかになっております。こうした傾向も踏まえ、若い世代の人たちにもしっかりと届く様々な支援策を用意し、実行していくことが求められていると考えます。

法務省においても、関係府省庁や保護司等民間協力者と連携しながら、犯罪や非行をした若者などに対する立ち直り支援や、若年層が身近で利用しやすいLINEによる人権相談などの支援を推進してまいります。

以上です。

○赤池内閣府副大臣 ありがとうございます。

続きまして、鈴木外務副大臣、お願いいたします。

○鈴木外務副大臣 外務省としましては、特に在外邦人の孤独・孤立対策ということで、積極的に様々な施策を進めさせていただいております。本日は、既に実施させていただいている大きく5点について報告をさせていただきます。

まずは、NPO連携です。昨年7月以降、在外邦人からの相談に国内のNPO5団体と連携をして対応する官民連携の枠組みを構築しております。この枠組みは今まで存在しておりませんで、今般初めての試みであります。NGOと外務省、そして在外公館が相互に連携を取り合い、孤独・孤立、DV、いじめ、虐待案件などにシームレスに対応させていただいております。支援の最前線の現場からは、大変高い評価をいただいているものと自負をし

ております。

続いて、民間との連携です。昨年9月には、日系民間ボランティア団体が毎年主催している在アメリカの在留邦人向けの海外生活に関するフェアにおいて、初めて孤独・孤立問題というものをウェビナーのテーマの一つとして取り上げていただきました。

3つ目は、相談体制の拡充であります。今年2～3月にかけて、在外邦人向けの無料オンライン医療相談を実施いたしました。2か月で実に9,000件もの相談がありました。また、そのうちの4分の1、25%が心療内科関係であったことは、孤独・孤立対策の重要性を裏づけるものと思います。野田大臣、今回の取組というものは、余った補正で予算化をさせていただいて、取組をさせていただきました。ニーズが高いことが分かっておりますので、予算面でのさらなる応援をいただければ幸いです。

周知広報においても、孤独・孤立対策キャンペーンは、在外公館を通じて在外邦人に対して周知を行っております。

最後に、政策輸出であります。5月30日に内閣官房との共催で、外務省において駐日大使会合を開催いたします。孤独・孤立担当大臣、現在では日本が唯一その大臣を有している国でありますので、その経験、知見を、G7を含めた主要国、また各国に展開させていただきながら、孤独・孤立政策において国際社会でもリーダーシップを発揮させていただきたいと思います。

○赤池内閣府副大臣　ありがとうございました。

続きまして、池田文部科学副大臣、お願いいたします。

○池田文部科学副大臣　文部科学省の池田でございます。

先日開催されました第2回「ひとりじゃないカフェ」においては、室伏スポーツ庁長官をお招きいただきまして、また、末松文部科学大臣からもメッセージを発信させていただきました。今後も、引き続き内閣官房と連携させていただき、キャンペーンの周知等に協力をしてまいりたいと考えております。

また、本日御報告いただいた実態調査におきまして、男女を問わず様々な年代で、望まない孤独を感じている人が一定数いることが数値としても明らかになったと思います。

文部科学省では、これまでもいじめなどの悩みを抱える児童・生徒への相談体制の充実などに取り組んでまいりましたが、本調査や孤独・孤立対策の重点計画も踏まえまして、より一層取組を推進してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○赤池内閣府副大臣　ありがとうございました。

続きまして、石井経済産業副大臣、お願いいたします。

○石井経済産業副大臣　経済産業省といたしましては、孤独・孤立対策の重点計画に登録いたしました施策を着実に実施いたしますとともに、キャンペーンの周知に取り組んでおります。

具体的に申し上げますと、重点計画に登録した施策でございます「職場等での心の健康

保持増進を目指した介入のエビデンス構築」につきまして、本年度から開始をする心の健康保持増進に資するヘルスケアサービスの創出に向けた数千人規模の本格的な介入研究の研究計画を策定したところであります。

また、孤独・孤立対策官民連携プラットフォームで開催されておりますイベントあるいはチャットボット等のキャンペーン情報につきましては、経団連などの団体経由で、定期的に事業者にも周知をいたしております。

以上でございます。

○赤池内閣府副大臣 ありがとうございます。

続きまして、大岡環境副大臣、お願いいたします。

○大岡環境副大臣 環境省から孤独・孤立対策の重点計画に登録しております政策は3つでございます。1つは「つながりの場所」としての自然公園の活用、2つ目は地域における効果的な熱中症予防対策の推進、3つ目がフードドライブの推進です。

まず、自然公園です。富士山とか東尋坊とか、自殺の名所のように思われておりますけれども、そこをつながりの場所として進めていきたい。国立公園等で体験できるアクティビティーやツアー等の魅力的なコンテンツの造成や、ウェブサイト・SNSを活用したそれらの情報発信に取り組んでまいりたいと思います。その際に、孤独感のある人の割合が20代や30代が多いということでしたので、そこを考慮して、その層に向けた情報発信を行ってまいりたいと思います。

2つ目の熱中症です。地域における効果的な熱中症予防対策の推進ということで、地域関係者と連携しながら、単身高齢者の熱中症弱者に対して見守り・声かけを行うということで、令和4年度も地域モデル事業を実施してまいります。

3点目、フードドライブです。家庭で余った食品を回収してフードバンク等を通じて生活困窮者に届けると。昨年、食品ロス削減環境大臣表彰を受賞した神戸市、ダイエー、サカイ引越センターの連携事業がありますので、これを踏まえて、本年3月に「フードドライブ実施の手引き」を作りました。今年度以降も横展開をしていきたいと思います。

正直申し上げて、私もいい知恵がなくて、この程度しか発表できないのですが、今回の調査結果を踏まえて、もう少し施策を検討するとともに、来年度の予算要求に向けてまいりたいと思います。

以上です。

○赤池内閣府副大臣 ありがとうございます。

続きまして、鬼木防衛副大臣、お願いいたします。

○鬼木防衛副大臣 先週21日に配信された第2回「ひとりじゃないカフェ」において、自衛隊体育学校から東京オリンピックに出場した自衛官2名が出演し、キャンペーンに協力いたしました。柔道女子78キログラム級金メダルの濱田尚里1等陸尉と、レスリング男子フリースタイル74キログラム級の乙黒圭祐3等陸尉が、東京オリンピックを目指す厳しい練習の中で直面した孤独・孤立の経験や、それを乗り越えるため周囲から大きな支

えを受けたことなどについて語りました。このような経験談は、同様の悩みを抱える方にとって大きな助けになったのではないかと思います。防衛省・自衛隊では、引き続き孤独・孤立対策に取り組んでまいります。

以上です。

○赤池内閣府副大臣 ありがとうございました。

続きまして、深澤厚生労働大臣政務官、お願いいたします。

○深澤厚生労働大臣政務官 厚生労働省における内閣官房の実施するキャンペーンに関連する取組を紹介させていただきます。

本年6月に、市町村職員等を対象とするセミナーにおいて、孤独・孤立対策を取り上げることといたしております。

また、従来から、厚生労働省においては、指定調査研究等法人の「いのち支える自殺対策推進センター」とともに、著名人などの自殺報道が行われる場合に、報道機関に対してWHOの「自殺報道ガイドライン」を踏まえた報道を行うよう要請しております。3月に自殺報道に関する事案が生じた際も、報道機関への要請文において、内閣官房のポータルサイトも紹介するとともに、孤独・孤立対策担当室及び厚生労働省のツイートで、共に相談先の情報や報道機関への要請を拡散するなど、連携を図り取組を進めております。

さらに、総合緊急対策において、生活困窮者等の孤独・孤立対策に関して、NPO等が独自に行う支援活動に対する支援の拡充を行うこととしております。

厚生労働省としても、令和5年度予算要求については、内閣官房孤独・孤立対策担当室と連携の上で今後検討するなど、必要な対応をしてまいります。

以上です。

○赤池内閣府副大臣 ありがとうございました。

続きまして、下野農林水産大臣政務官、お願いいたします。

○下野農林水産大臣政務官 農林水産省としましては、令和3年度補正予算、令和4年度予算等を活用し、農林水産分野における孤独・孤立対策を進めてまいりました。具体的には、福祉施設等に食品を提供するフードバンクへの支援、新型コロナの影響を受けた国産農林水産物を、食育活動を行う子ども食堂等へ提供する際の支援等を行ってまいりました。

また、これらの取組以外にも、障害者や生活困窮者等の方々の雇用・就労を促進する農福連携の推進、子ども食堂等に対する政府備蓄米の無償交付等の取組を行っております。

引き続き、NPOなどの民間団体や関係府省と連携しながら、しっかり対応してまいります。

以上です。

○赤池内閣府副大臣 ありがとうございました。

続きまして、加藤国土交通大臣政務官、お願いいたします。

○加藤国土交通大臣政務官 国交省では、誰もが安心して暮らせる多様な住まいの確保を図ることが極めて重要な課題だと捉えております。

このため、重点計画に基づき、居住支援活動や居住環境における交流創出に対する支援として、NPO等への活動支援や公営住宅等への交流スペース設置といった環境整備への支援に取り組んでいるところです。

また、本日、関係閣僚会議で決定されました総合緊急対策においても、孤独・孤立対策として、居住支援の強化が位置づけられております。

国民一人一人の孤立を防ぎ、不安に寄り添うためにも、重点計画に基づき、居住の安定確保に向けた対策にしっかりと取り組んでまいります。

以上です。

○赤池内閣府副大臣 ありがとうございました。

御出席の皆様方、御発言漏れはございませんでしょうか。

(「なし」と声あり)

○赤池内閣府副大臣 ありがとうございます。

最後に、野田大臣より締めくくりの御発言をいただきたいと存じます。

その前に報道機関が入室いたしますので、しばらくお待ちください。

(報道関係者入室)

○赤池内閣府副大臣 それでは、野田大臣、よろしくお願いいたします。

○野田孤独・孤立対策担当大臣 皆さん、本日は、孤独・孤立対策について、それぞれの所管分野における関連施策の取組状況、そして取組方針などについて報告をいただき、ありがとうございました。

コロナ禍の長期化、また、物価高騰等による国民生活への影響が懸念される中、孤独・孤立対策の重要性がさらに高まっていて、政府一丸となって取組を一層加速させる必要があります。

コロナ禍、ウクライナ、様々な件は有事ですけれども、平時のときから既にこの国の土台の孤独になりにくい世帯づくりというのが、一人世帯が増えている、非婚が増えている、離婚が増えているということで、なかなか家族とか近くで話をできる状況でない中で厳しい有事が重なってきているという理解をしたほうがいいのかなと思っています。

孤独・孤立というのは、皆さんはどうか知りませんが、私はこの仕事の中で一番孤独だったのは、29歳のときに選挙に落選したときです。何もかも失ったときに、恥ずかしくて、家族にも自分の惨めな状況を言えないとか、そういうふうに分が内に籠もったことがあります。ただ、それは少し昔の話なので、今、アンケートでそこを思い出せるかどうかという、孤独・孤立対策をやっているからそういうことがあったなと思ひ出せるので、実は孤独・孤立というのは常にあることでもない、でも必ず何かのときに突然起きたりすることであって、そこでしっかりリカバリーできるかどうかということが、今日はあまり語られていなかったのですけれども、時々あるとか常にあるというコンディションというよりも、望まない孤独というのは、本人がどんなに努力しても突然来ることがある。そのときにしっかりと皆さんが立ってられるような環境整備を私たちはいつも準備

しておくことが大事なのだろうと私自身は、あえて自分を振り返りながら、そういうときに何か支えがあったかな、こういうことがあったなということを考えています。

「ひとりじゃないカフェ」というのはそこが一番大事で、孤独や孤立ですくんでしまうときがある。自分は弱い人間だと。これまで過去、そういう社会の風もあったと思うのです。自分が弱いから孤独の中で打ちひしがれてしまう。そうではなくて、みんなあるのだということを見える化するために、この人は孤独なんて、孤立なんてなかっただろうなという、今回の場合だと防衛省と文科省のお力を借りて、いわゆるヒーロー、英雄と言われるような人たちにもすぐそばに孤独・孤立というのはいつもあるということを多くの方々に知っていただき、孤独を感じることは決して悪いことでもなく、否定でもない。けれども、万が一のときにはちゃんと支えられるというつながりをつくっていかうということなので、無理を言って末松大臣や岸大臣にもビデオ出演していただきました。これからは各府省の皆さん、自分たちの仲間で世間的に強いと思われる人たちも孤独があった、孤独がある、そこを自分たちは何をもって乗り越えてきたというノウハウの伝え合いができればいいと思うので、大臣より俺のほうがいいぞ、私のほうがいいぞと思えば、ぜひ手を挙げていただきまして、「ひとりじゃないカフェ」に出席してもらえたらうれしいなと思っています。

調査のほうも説明があったとおりで、今年度も引き続き実施する予定ですけれども、各府省においても必要に応じて関連統計の調査項目を見直していただくなど、各分野における実態把握に向けて、取組の協力をお願いしたいと思います。

最後に、今次、岸田総理のリーダーシップの下、総合緊急対策、ここでは孤独・孤立対策に取り組むNPO等への支援拡充について御協力いただきました。私から、関係府省の皆さんに心から感謝申し上げたいと思います。

予算については、先ほど赤池副大臣から発言がございましたとおり、令和5年度概算要求に向けてしっかり検討をしていただくよう、お願いいたします。

私からは以上です。

孤独・孤立対策のさらなる推進のために、ぜひ、ここにいる皆様方、会議の構成員の皆様方のさらなる御協力をお願い申し上げまして、挨拶にします。

皆さん、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。（拍手）
○赤池内閣府副大臣 以上をもちまして、本日の対策推進会議を終了させていただきたいと存じます。

本日は、最後まで御参加、ありがとうございました。